

平成22年度極域科学専攻在学生アンケート集計結果

1. 趣旨

当専攻の教育課程等に関するアンケートを行い、学生の意見を聴取することで、当専攻の教育課程、教育研究環境等の改善に資することを目的とする。

2. アンケート実施方法

極域科学専攻生にアンケート用紙を個別配布（pdfファイルで配付）し、電子データで回収。

3. 回収率等

- (1) 在学生数 15人（外数で1名退学）
- (2) 回答数 9人
- (3) 回答率 60%

4. 集計結果と個別分析

評価基準は各項目共通（自由記述部分を除く）で次のとおり。

「4：強く思う 3：そう思う 2：そう思わない 1：全く思わない」

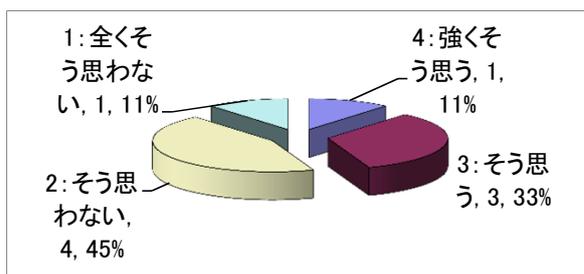
なお、無回答及び該当無しという回答については、集計の対象からは除外した。

コメントは回答結果をもとに事務局が原案を作成し、専攻長が校閲した。

(1) 研究指導について

1) 研究指導を複数の指導教員で行う複数指導体制は機能していると思うか。

4：1件 3：3件 2：4件 1：1件 【平均2.44】

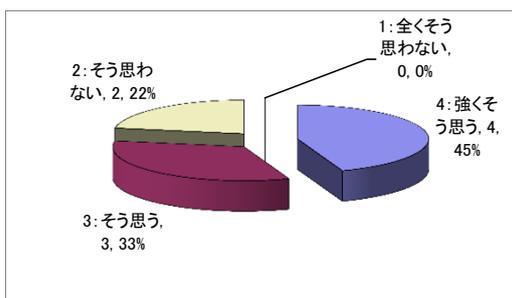


(コメント)

2に4件、1に1件回答があり、複数指導体制について学生が不満を感じていることが分かる。学生に対して何かしらの反応を示す必要があると思われる。

2) 指導教員は研究指導に十分な時間を割いていると思うか。

4 : 4件 3 : 3件 2 : 2件 1 : 0件 【平均3.22】

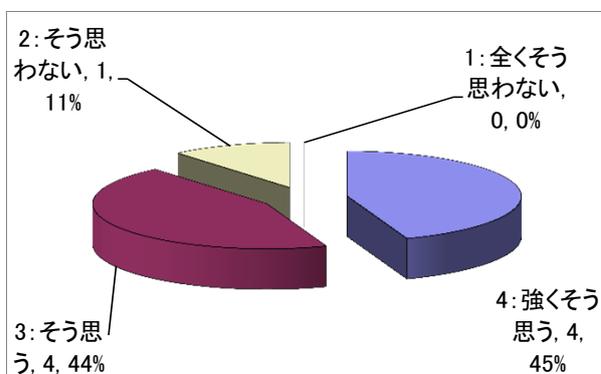


(コメント)

4と3をあわせて、7件78%であり、おおよそ十分な時間を割いて研究指導を行っていると思われているが、2の回答が2件あるため、対策を考える必要がある。

3) 指導教員は学生の研究計画策定に関し適切な助言を行い、研究計画の実施に際しては適切に指導を行っていると思うか。

4 : 4件 3 : 4件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.33】

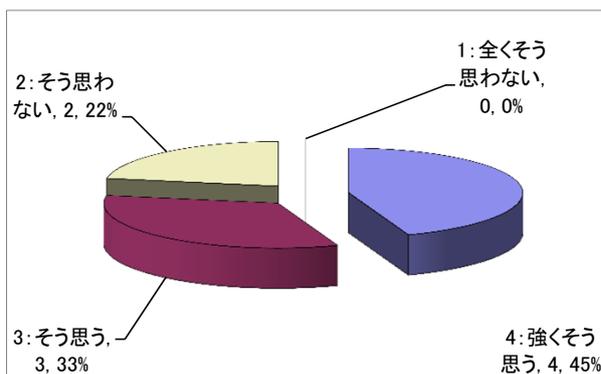


(コメント)

4と3をあわせて、8件89%を数え、ほぼ適切な助言及指導を行っていると言える。

4) 総合的に考えて研究指導に満足していると言えるか。

4 : 4件 3 : 3件 2 : 2件 1 : 0件 【平均3.22】



(コメント)

4と3をあわせて、7件78%を数え、ほぼ研究指導に満足していると言える。

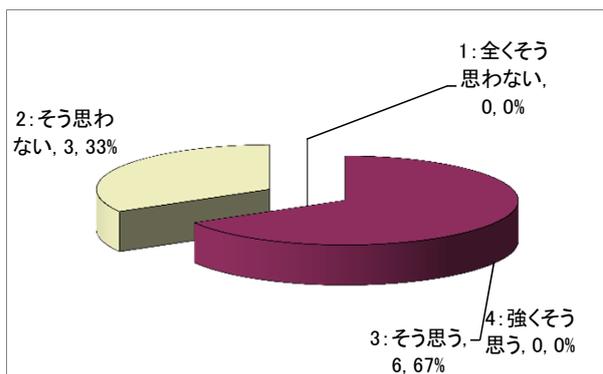
4-1) 言えない場合は、どのような点が満足と言えないのか、又どのような対応をすべきか記載して下さい。
(自由記述)

・複数指導体制が全く機能していない。一つの案として、研究状況の把握等を他の分野の教員が共有することを挙げる。同分野2人体制ではなく、指導教員+研究把握教員の体制。

(2)教育課程(カリキュラム)について

1) 専攻で開講している専門科目は当該分野での学位取得に向けて必要な科目を網羅していると思うか。

4 : 0件 3 : 6件 2 : 3件 1 : 0件 【平均2.67】



(コメント)

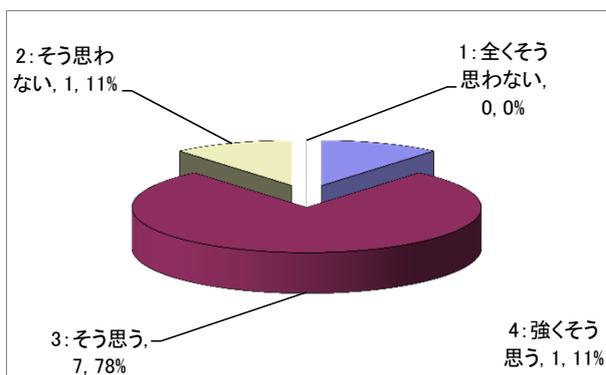
3の回答が6件、2の回答が3件もあり、検討する必要がある。

1-1) 思わない場合は、どのような授業科目が必要だと考えるか記載して下さい。(自由記述)

- ・学生の数が少ないため、現実的ではないが専門科目の集中講義等は有効だと思う。
- ・個別に専門的な科目(解析学など)は不足していると思うが、外部の講義で補えるので今のところ十分

2) 研究科で開講している研究科共通基礎科目は、研究科の共通基礎科目として適切な内容だと思うか。

4 : 1件 3 : 7件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.00】



(コメント)

4と3の回答をあわせて8件で89%であるため、研究科共通基礎科目は適切な内容であると言える。

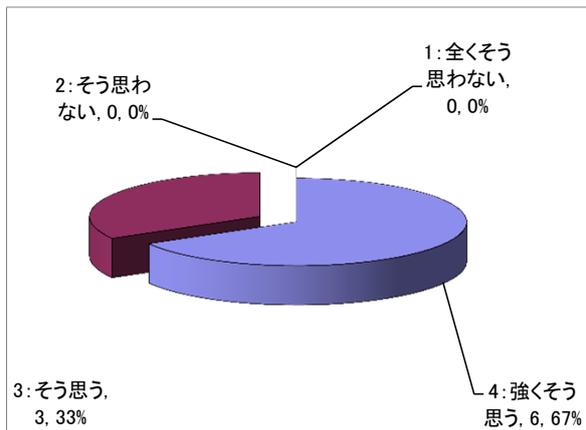
2-1) 思わない場合は、その理由を記載して下さい。また研究科共通基礎科目として開講すべきと考えられる授業があれば記載して下さい。(自由記述)

- ・学部生への講義ではないので、体系的な理解を進める講義はあまり有用ではない。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援等)について

1) 学生の居室のスペースは十分と思うか。

4 : 6件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.67】

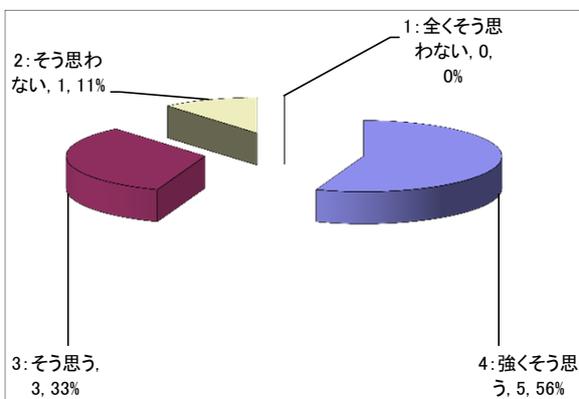


(コメント)

4と3あわせて、9件100%であり、ほぼ十分な居室スペースが確保されていると言える。

2) 学生が研究活動を実施する上で必要な機器等の設備は十分と思うか。

4 : 5件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.44】



(コメント)

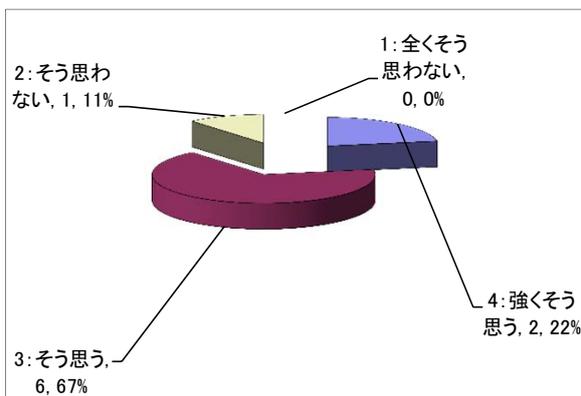
4と3あわせて、8件89%であり、ほぼ十分な研究設備が整っていると言える。ただし、自由記述で学生部屋に棚を置きたいとの意見があり、専攻長経費等で購入するなど、対応は可能である。

2-1) 十分でない場合、どのような機器が必要か。(自由記述)

・学生部屋に棚がないので書類や野外用の荷物がデスクまわりにあふれてしまっている。(地圏学生部屋)

3) 図書室の蔵書は十分と思うか。

4 : 2件 3 : 6件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.11】



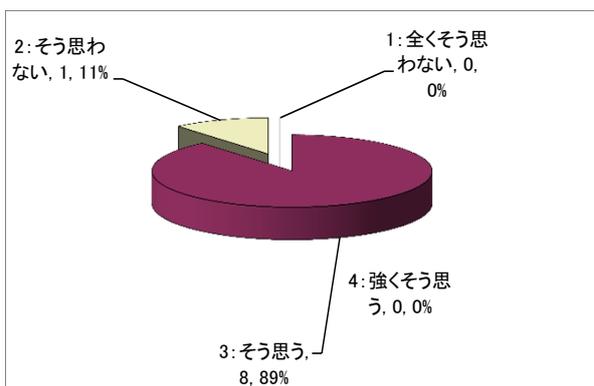
(コメント)

4と3あわせて8件89%であり、ほぼ蔵書が整っていると言える。具体的な意見もなかった。

3-1) 十分でない場合、どのような蔵書が必要か。(自由記述)

4) 利用できる電子ジャーナルの種類は十分と思うか。

4 : 0件 3 : 8件 2 : 1件 1 : 0件 【平均2.89】



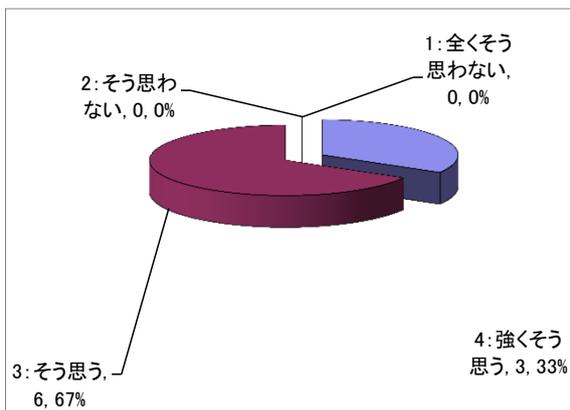
(コメント)

4と3あわせて、8件89%であり、ほぼ種類がそろっていると言える。意見や要望も特になかった。

4-1) 十分でない場合、どのような種類の電子ジャーナルが必要か。(自由記述)

5) 図書室その他の施設の利用はしやすいと思うか(利用時間、利用条件、利用手続き等の点から)

4:3件 3:6件 2:0件 1:0件 【平均3.33】



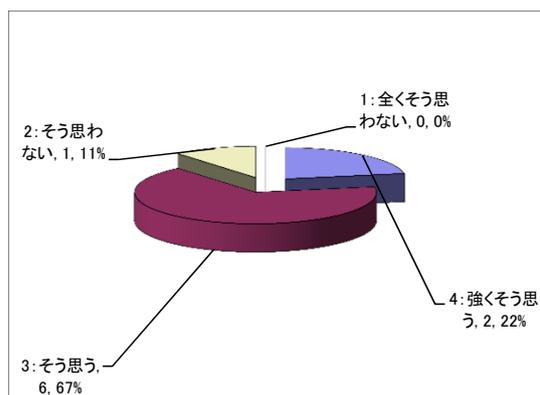
(コメント)

4と3あわせて、9件100%であり、利用しやすいと言
える。

5-1) 利用がしづらい場合、どの施設がどのように利用しづらいか記載して下さい(自由記述)

6) リサーチアシスタントは学生の研究能力向上に資するものとなっていると思うか。

4:2件 3:6件 2:1件 1:0件 【平均3.11】



(コメント)

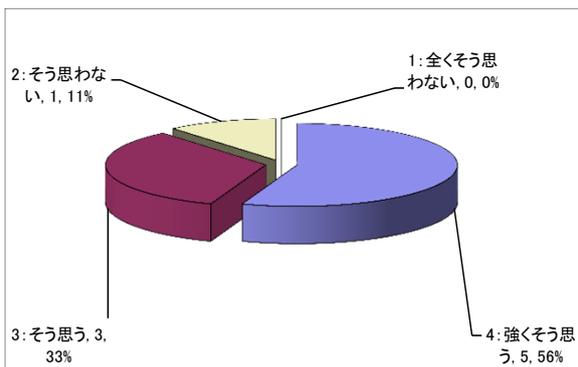
4と3あわせて、8件89%であり、RAが研究能力向上
の観点から、おおよその学生にとって資するものにな
っていると言える。

6-1) 思わない場合、理由は何か。また、どのような対策が必要か。(自由記述)

特になし。

7) 学生の研究活動支援対策（学生支援経費による交通費、宿泊費の支援、旅行時の傷害保険に専攻として一括加入等）は十分と思うか。

4 : 5件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.44】



(コメント)

4と3あわせて、8件89%であり、学生の研究活動支援対策は、十分な水準にあると言える。

7-1) 思わない場合は、どのような問題点があるか。また他にどのような支援が必要か。

・宿泊費に関して過去の在校生からも、国別に設定された支給額が現在のレートに対し適当でないという意見があったが改善が見られず、海外出張の際、個人にかかる負担が大きい場合がある。学会や調査を行う場所により、その国の中でも特殊な価格帯の宿泊費が設定されている場合もあるので、上限を超える場合は申立てのような形で理由を聞いて頂き、必要と判断されるものに関しては保証を受けたい。

(4) その他（その他意見、要望等を自由に記述して下さい。）

・全体的に教員が教育活動に消極的であるように感じる。いち研究者であることに加え、指導者であることを自覚して教育活動を充実させてもらいたい。
・研究指導については総研大は他大学と大きく違う点がある。他大学のように1つの研究室にポスドクや上級生がたくさんいるわけではなく、他大学の学生に比べればより積極性を求められる。ただし、積極的に指導教員の部屋に足を運びさえすれば教員は十分に時間を割いて指導してくれるので、その点は他大学のようなポスドクや上級生に任せきりの状況よりはずっと良いと思う。その点を今後入学してくる学部生たちには説明する必要がある。研究所内ではポスドクはかなり離れた部屋にいる。上級生が面倒見がよいわけではない。(同じ研究をしているとは限らないので。むしろ全く違うことを研究している場合が多いので)。そういった状況に突然入学してどうしたらよいかわからないうちに進学を諦めてしまうというパターンを数例見ている。他大学とは異なることを説明したほうが良いと思う。

5. 各項目におけるまとめ

(1) 研究指導について<項目(1)-1~4)>

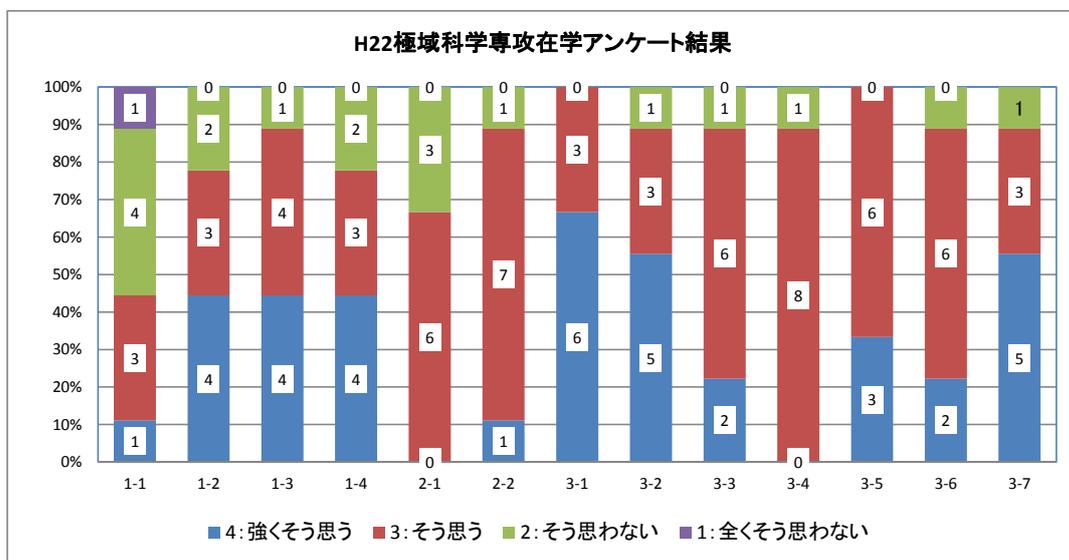
今回のアンケートの結果、最も結果が悪かった項目が、(1)-1) 複数指導体制についての項目であった。学生にとってはまだ十分に機能しているとは思われていない。また、自由記述からも、学生が必要でないと感じていることが分かる。主任指導教員と学生の問題が生じた場合等、主任指導教員以外の指導教員の果たす役割は重要である。主任指導教員による研究指導の量と質については、2) 及び3) の項目からほぼ十分な水準にあると言える。また、総合的に考えた場合の満足度についても、ほぼ十分な水準にあることがわかる。

(2) 教育課程(カリキュラム)について<項目(2)-1~2)>

(2)-1) 及び2) について、否定的な回答が多い。今後、複合科学研究科全体でカリキュラム編成を検討する必要がある。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援)について<項目(3)-1~7)>

21年度在学生アンケートでフィードバックを行った成果があったのか、否定的な回答が減ったと思われる。その都度、学生から要望等あれば取り組む予定である。



6. 今後の対応

平成23年度についても同様のアンケートを実施し、評価及び年度ごとの比較を行う予定。
 今回の調査結果については、専攻委員会及び学生へ回付し、極域科学専攻HPに掲載する。